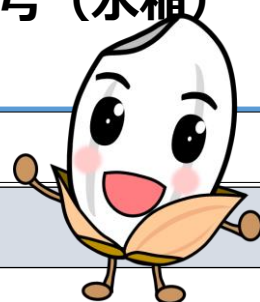


令和7年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第4号（水稻）

令和7年7月10日発表（対象期間：令和7年7月上旬～7月下旬）



1- (1)

水稻病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
葉いもち	※中北部	やや多 	並 	・中北部は発生が多いため、穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。 ・置き苗は発生源になるので、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。 ・育苗箱施用剤を処理したほ場でも、発生に注意してほ場の見回りを行ってください。 ・いもち病に弱い品種では特に注意しましょう。 ・発生が見られたほ場では、速やかに防除しましょう。
	南部	並 (発生なし) 	やや少 	
紋枯病		並 	やや多 	・梅雨明け後に高温で経過すると感染が進み、発病株率が増加するので注意が必要です。 ・昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 ・防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。
セジロウンカ		やや少 	やや少 	・穂ばらみ期の防除を徹底しましょう。 ・一部の飼料用米では、特に注意しましょう（北陸193号、タカナリなど） ・飼料用米では、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル（農林水産省HPに移動）」を参考に防除して下さい。 ・要防除水準；幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ		並 	並 	・今後の飛来によっては、発生量が増えることもあるため、ほ場での発生状況を確認しましょう。 ・防除判断は、9月上旬（飛来後第3世代幼虫発生期）です。
イネカメムシ		並 	並 	・出穂前の水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。 ・斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の2回目防除も検討しましょう。 （要防除水準） 2頭以上/20回振り （防除時期） 出穂期～その10日後に1～2回
斑点米カメムシ類		並 	やや多 	・早生は出穂が早いため防除時期を逸しないようにしましょう ・出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控え、中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。 ・予察灯（呉市安浦町）のアカスジカスミカメの誘殺は、平年並となっています。

※
中北部とは、
北部、中東部、中西部
を合わせた地域です

① 葉いもち

予報の根拠

(+) : 多発要因、(±) : 平年並、(-) : 少発要因

中北部

現況

予報

やや多

並

現況

予報

並
(発生なし)

やや少

- 7月上旬巡回調査では、中北部ではやや多く、南部では発生がありませんでした(±)。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量は少ないです(-)。
- BLASTAMによる累積感染好適日は、平年より多くなっていますが(+)、6月27日以降感染好適日は確認されていません(-)。

【防除上の注意事項】

- 穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- 置き苗は発生源になるので、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。
- 育苗箱施用剤を処理したほ場でも、発生に注意してほ場の見回りを行いましょう。6月以降の田植で遅効性の抵抗性誘導剤を使用した場合、効果が劣ることがあるため、いもち病に弱い品種では特に注意が必要です。
- 葉いもち初発確認後の早い時期に防除効果が高くなります。発生が見られたほ場では、速やかに防除しましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑(普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑(普通作物)」

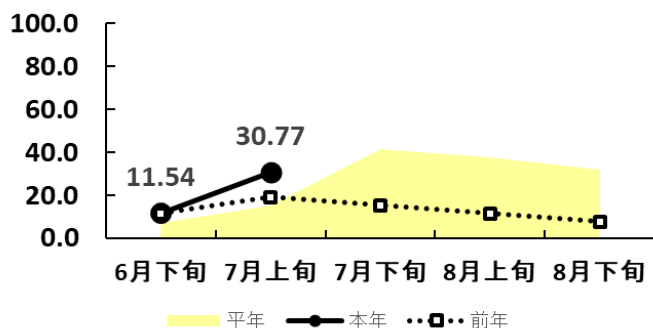
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

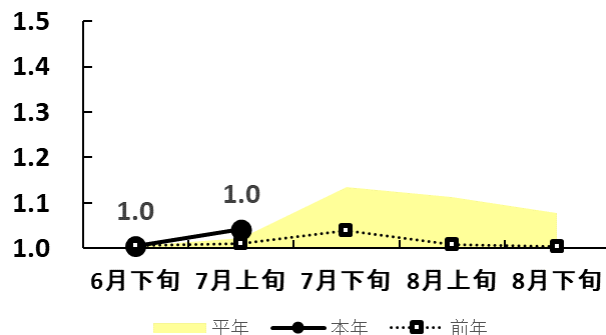
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ】

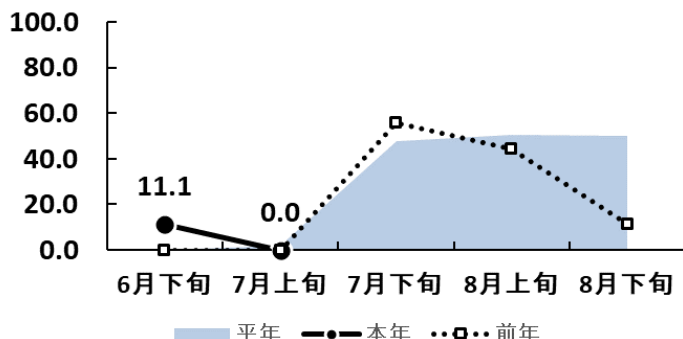
葉いもち 発生地点率(中北部 26地点)



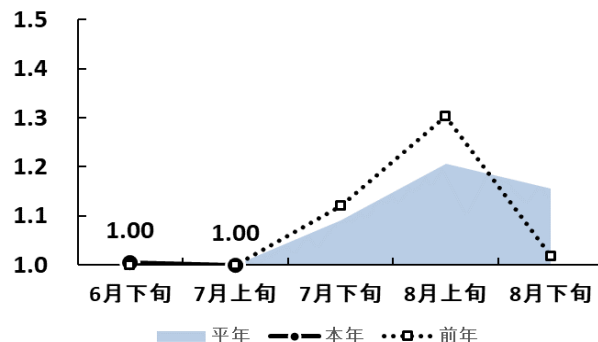
葉いもち 発生程度(中北部 26地点)



葉いもち 発生地点率(南部 9地点)



葉いもち 発生程度(南部 9地点)

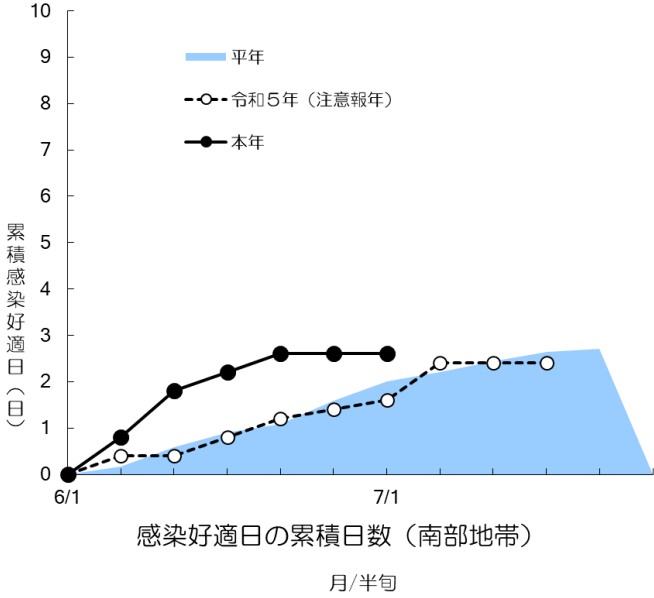
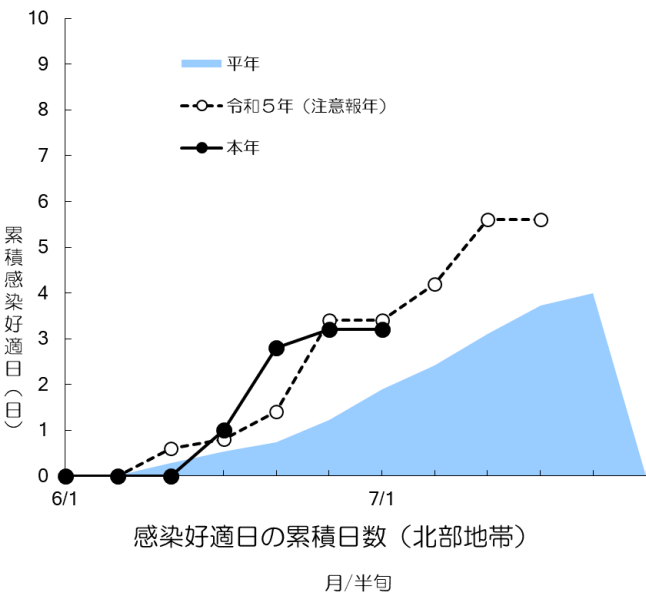
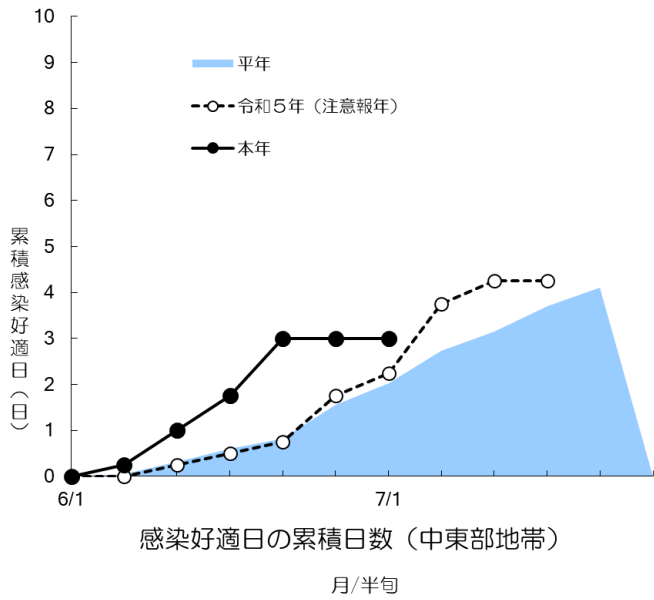
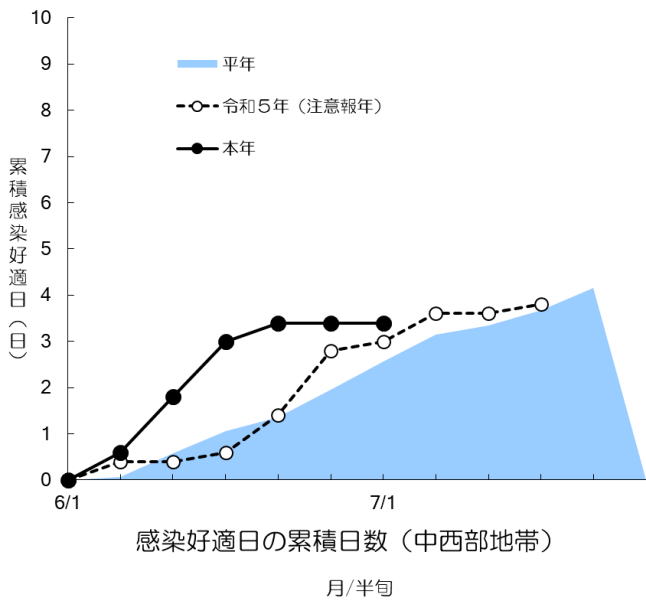


BLASTAMによる「いもち病の危険度」の推定

地帯別「いもち病の感染好適日」の累積日数

※ いもち病の発生しやすさを予測するシステム：BLASTAM（ブラスタム）を用いて、気象庁のアメダスデータ（気温、降水量、風速、日照）から、葉面の湿潤時間を計算し、いもち病が発生しやすい条件となる日：感染好適日を推定しています。

※ 累積感染好適日とは、BLASTAMによる感染好適日を累積したものです。値が大きい程いもち病の発生リスクが高いと予想されます。



② 紋枯病

現況

予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 7月上旬巡回調査では、1地点で確認され、県全域では平年並の発生でした(±)。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量は少ないです(±)。



【防除上の注意事項】

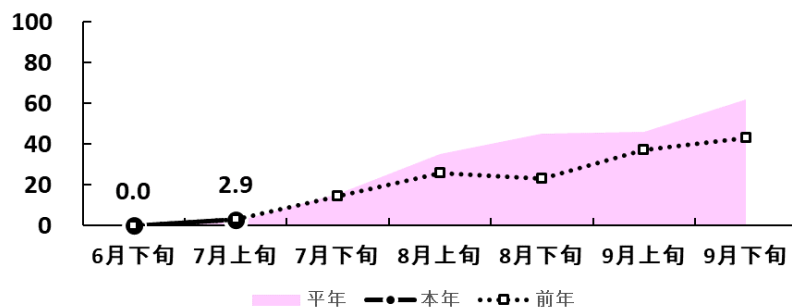
- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。
梅雨明け後の高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは防除を徹底しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期です。
薬剤は、病患部の葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。

(要防除水準)

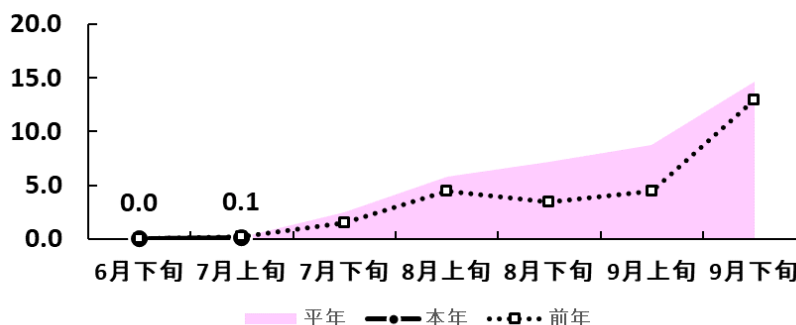
穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。

【巡回調査データ】

紋枯病 発生地点率(全域 35地点)



紋枯病 発生株率(全域 35地点)



③ セジロウンカ

現況 → 予報

予報の根拠

- 7月上旬巡回調査では、県内の2割近いほ場で発生が確認されました（－）。
- 予察灯では、6月10日に雄成虫1頭が初確認され（呉市）、7月1半旬までに計3頭誘殺されています（－）。
- 予察田（呉市）では、7月2半旬に100株当たり6頭確認されています（－）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く増殖に不適です（－）。

やや少



やや少



(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

● 穂ばらみ期の防除を徹底しましょう。

● ウンカ類に卓効を示し長期残効するトリフルメゾピリムなどを含有する箱施用剤を処理している場合、本虫が急激に増殖する可能性は低いと考えられます。

しかし、箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合、田植えが5月上旬までの場合、ほ場での発生状況を確認し、防除を実施しましょう。

- 今後も飛来が予想されるため、発生量の増加に注意しましょう。
- 今後の発生状況については、発生予察情報を参考にしてください。

(要防除水準)

幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上

- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病虫害情報」の「調査の方法」をご覧ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/475204.pdf>



体長: 約4.5~5mm

長翅型雌成虫



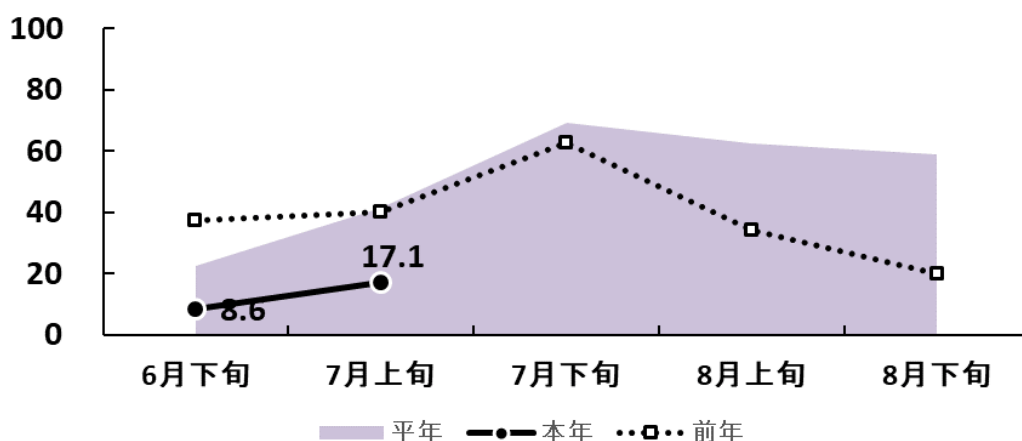
体長: 約3mm

体長: 約2mm

中老齢幼虫

【巡回調査データ】

セジロウンカ 発生地点率(全域 35地点)



④トビイロウンカ

現況

予報

予報の根拠		並	並
(+) :多発要因 (±) :平年並 (-) :少発要因	●7月上旬巡回調査では、発生は見られませんでした。 ●予察灯（呉市）で7月7日に雌成虫1頭初誘殺されました（+）。予察灯（東広島市）、予察田（呉市）では、確認されませんでした（-）。 ●中国地方1か月予報では、気温が高く増殖に不適です（-）。		

【防除上の注意事項】

- 5月上旬までの田植えの場合では、箱施用剤の効果が弱まっている可能性があるため、ほ場での発生状況を確認しましょう。
- 5月中旬以降田植えの場合では、ウンカ類に卓効を示し長期残効するトリフルメゾピリムなどを含有する箱施用剤を処理している場合、本虫が急激に増殖する可能性は低いと考えられます。
 しかし、箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合、ほ場での発生状況を確認しましょう。
- 今後も飛来が予想されるため、発生量の増加に注意しましょう。
- 今後の発生状況については、発生予察情報を参考にしてください。
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/475204.pdf>



体長: 約4.5～5mm

長翅型雌成虫



体長: 約3.3mm

短翅型雌成虫

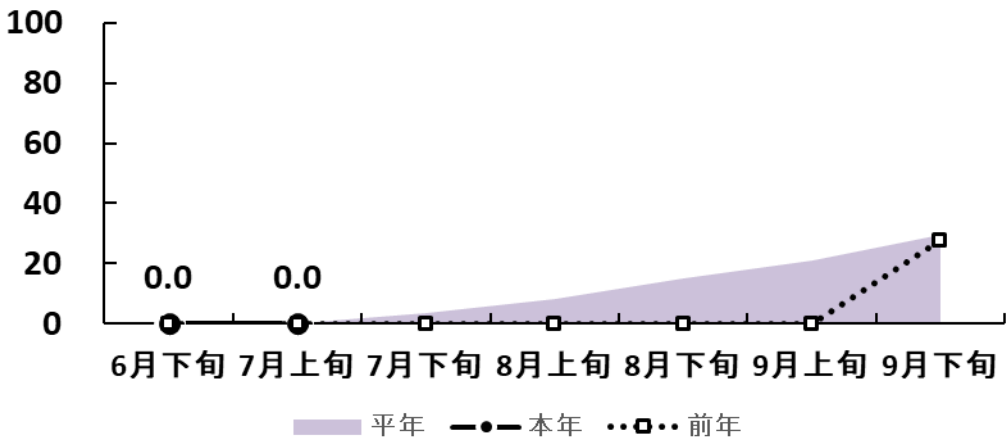


体長: 約1.5～3mm

中老齢幼虫

【巡回調査データ】

トビイロウンカ 発生地点率(全域 35地点)



⑤- 1 イネカメムシ

現況  予報

予報の根拠

- 予察灯（呉市）で、7月8日に1頭誘殺されました（+）。予察灯（尾道市・東広島市）では、誘殺は確認されていません（-）。
- 現地でも、発生が確認されています（+）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（+）。

並



並



(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

- イネカメムシは、斑点米被害だけではなく不稔による大幅な減収を発生させる恐れがあります。出穂前の水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の2回目防除も検討しましょう。
- 周囲と比べて出穂が早い品種は、集中加害を受けるため、特に注意しましょう。

(要防除水準)

2頭以上／20回振り

(防除時期)

出穂期～その10日後に1～2回

- 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。



1 齢幼虫



中齢幼虫



成虫

【イネカメムシについて】

● 形態

体長12-13mmの大型のカメムシ。体色は黄褐色で背部両面に白色帯を持ちます。体形はやや細長いです。幼虫はそれより小さく、白っぽい灰色をしています。

● 生態

成虫はススキや樹木などの根元や枯葉の下などで越冬し、6月下旬～7月上旬頃に水田への飛来が見られます。出穂していない水田にも集中飛来して集団化することもあります。

その後、早生品種から中生品種へ出穂した水稻へ移動しながら増殖し、年1～2化します。

その後は越冬地へ移動します。

夜行性のため、早朝などはその姿を確認しやすいですが、日中はイネの株もとに潜むため発生に気が付かず、大きな被害が発生することが多いです。

⑤- 2 斑点米カメムシ類

現況 予報

予報の根拠		並	やや多
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	● 6月中旬の牧草地すくい取り調査では、カスミカメ類は平年に比べやや少なく、その他加害種は平年並み発生でした(±)。 ● アカスジカスミカメの7月第1半旬までの予察灯(呉市)への誘殺数は、75頭(平年51.8頭)で、過去10年で4番目に多いです(±)。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です(+)。		

【防除上の注意事項】

● 斑点米被害は、カメムシ類の成虫または幼虫がイネの出穂期以降に穂を吸汁し、吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで発生します。したがって、防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。但し、近年沿岸地域を中心に発生・被害が拡大してるイネカメムシ(⑤-1参照)については、穂ばらみ期の水田に侵入することが確認されており、多発時には出穂前の防除も実施しましょう。

● 早生は、出穂が早いいため防除時期を逸さないようにしましょう。

● 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。

(要防除水準)

カスミカメ類：4頭以上／20回振り

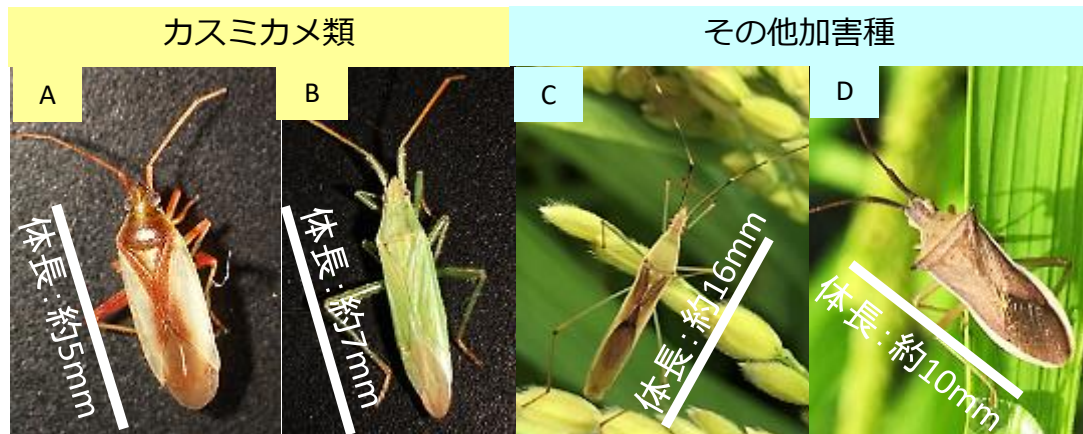
その他加害種：2頭以上／20回振り

(防除時期)

カスミカメ類：出穂期～その10日後に1～2回。

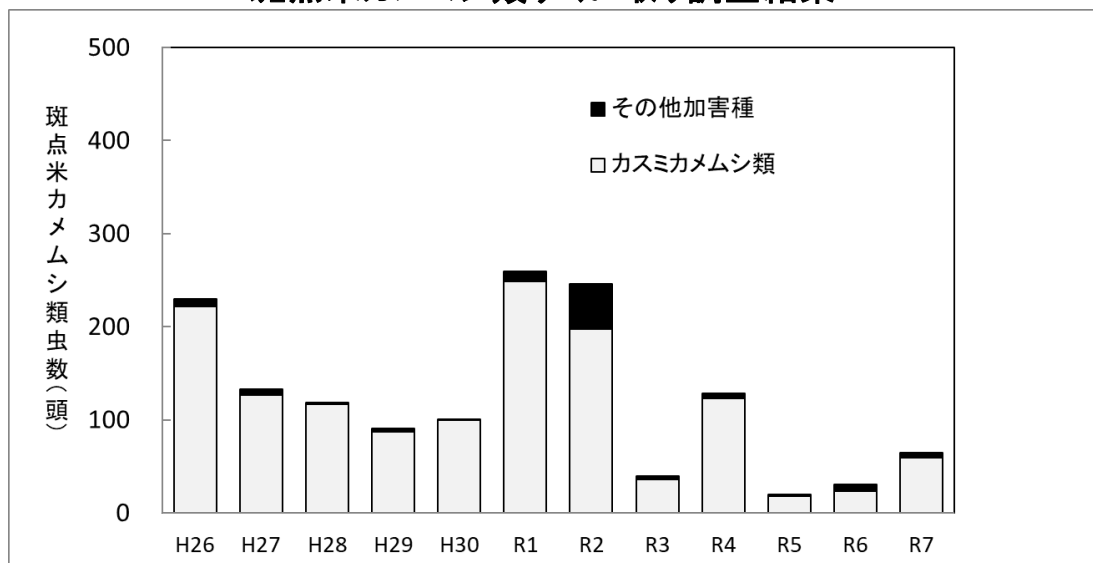
その他加害種：出穂7日後～14日後に1～2回。

● 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。



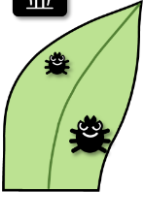
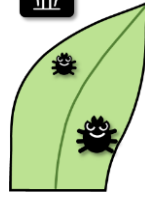
A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲムギカスミカメ、その他加害種C：クモヘリカメムシ、D：ホソハリカメムシ

斑点米カメムシ類すくい取り調査結果



※発生頭数は捕虫網による牧草地での20回振りすくいとり調査による

※カスミカメシ類はアカスジカスミカメなどの小型のカメムシ類、その他加害種はホソハリカメムシなどの大型のカメムシ類。

病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	並 	7月上旬の巡回調査では、平年並の発生でした。 出穂前後の防除を徹底しましょう。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ	少 (発生なし) 	7月上旬の巡回調査では確認されませんでした。 穂ばらみ期防除を基本に実施しましょう。
コブノメイガ	並 	7月上旬の巡回調査では35地点中1地点で確認されました。 (防除時期) 穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、 中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、 粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後、 粒剤は発蛾最盛期に追加で防除を行います

(広島地方気象台7月3日発表、7月5日から8月4日までの天候見通し)

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高い状態が続く見込みです。
- 太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。
- 週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率80%、3～4週目は高い確率60%です。

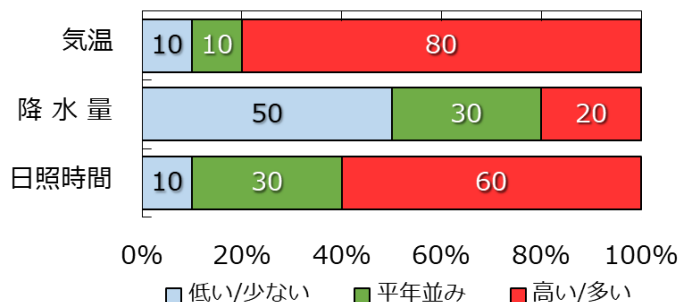


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

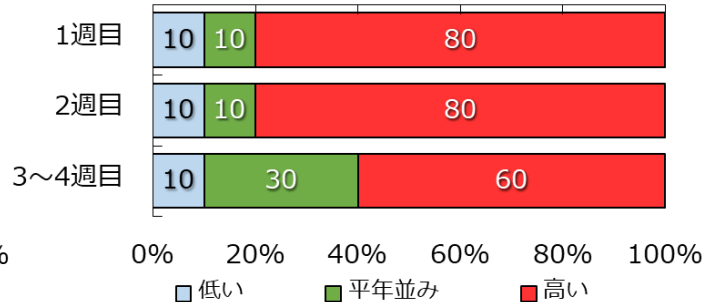
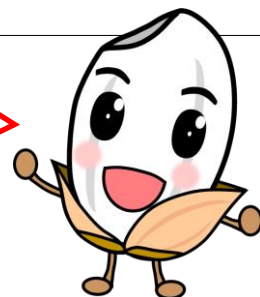


図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）

